

貧困による子供の教育格差

目 概要

出身家庭の経済状況により学習意欲があるにも関わらず、満足した教育を受けられない子供がいる。こうした子供が十分な教育を受けられる環境を作り、その子供の学習状況を確認できるアプリを作成し、外的要因による教育の不平等をなくしていきたいと考える。

📌 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

経済的な貧困による教育の不平等をなくしていきたい。
⇒子供に教育の機会を平等に与え、将来の選択肢を増やしてほしい。

📌 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

子ども食堂や、公民館、図書館、小学校といった場所に専用のPCまたはタブレットを設置し、アプリを搭載する。公民館や図書館で利用するため、低所得家庭の子供たちがスマートデバイスを持つ必要はない。

アプリに搭載する内容

①子供の学びたい内容と学習の進捗状況の登録

⇒対象者は小学生、中学生とする。

⇒進捗状況は共通の教科書に記載された練習問題の出来具合で判断する。

②勉強を教える人の名前を登録。ボランティアとして大学で募集。

・勉強を教えるのは、大学生とする。（大学生はスマートデバイスを持っている前提）

③学校の教科書内容を一覧で表示できる。

⇒児童・生徒は宿題などを持ち寄ることも可能。

④公共施設に設置してあるPCまたはタブレットでアプリを操作するのは

基本的に、公民館、図書館の担当者と勉強を教える大学生のみ。

大学生は自分が所有するスマートデバイスにアプリを入れ使用することができる。

ただし、利用にはメールアドレスやパスワードといった個人情報を登録する必要がある。

📌 類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

学習総合サイトStudyplus（スタディプラス）

<https://www.studyplus.jp/>

「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」

<https://toshimawakuwaku.com/gakusyuu/>

📌 有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

上記のStudyplus（スタディプラス）は全てオンラインで完結しているが、

実際に勉強を対面で教えてもらうことができる。

コミュニケーションの活性化につながる。

また、子供は学習以外のことに対してもアドバイスをもらうことができ、

教える大学生は勉強の一環となる。

子供の学習状況をアプリで管理できるため、いつ参加しても学習状況が分かる。

📌 実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

参加大学・自治体・公共機関・提供企業集め

スマートフォンアプリの提供

・企業側機能

・企業側情報登録

・サービスの利用状況

・大学生側機能

・ユーザー登録

- ・児童・生徒検索
- ・学習進捗状況登録
- ・コメント登録
- ・児童・生徒機能
 - ・名前登録
 - ・科目登録

寄付・助成金で運用する。

開催する場所：公民館、図書館、小学校など

開催日や開催曜日、時間は固定とする。

課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

教えるのが大学生であるが故に、時間の制約があること。

アルバイトではなくボランティアのため報酬が出ないこと。

⇒活動参加は授業の単位として認められる。

大学生の教育力のばらつき

⇒インターンシップの一部として取り入れる。

⇒インターンシップとして参加する条件として、共通のテストを受ける。

教育方法に一貫性がない。

⇒マニュアルを使用する。

教育資料を受け取れない家庭が存在すること。

⇒不必要となった教材を自治体が回収し、再利用して使用する。

期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

初期Web開発システム：約1000万

制度として完全に成立させるためにかかる期間は約2年くらいと想定

⇒1年目は、団体の募集、アプリを使用した模擬テスト（大学生同士で試してみる）

⇒2年目は、システムの改善、運用に不備がないかの確認、最終テスト（実践含む）

それ以降

⇒教育課程が変更されたとき、教科書内容の改定など

未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

子供が平等に教育を受けられる機会の増加

インターンシップとして参加する大学生が学ぶ機会の増加

地域交流の活性化